

件名:未来の林業従事者を守る鳥型安全装置のご提案(「高速エスパー」にインスパイアされて)

松本零士 零時社様御中

いつも大変お世話になっております。松本と申します。小生が子供のころにテレビで観た高速エスパーの相棒 鳥ロボット「チカ」のことが 60 年後の今蘇り安全装置のコンセプトに採用したいと考えております。この写真のエスパーの方に載っている鳥ロボットはエスパーに危険知らせたり予知したりする現在で言うところの AI 鳥ロボットです。



この度、「高速エスパー」をはじめとする平井和正先生の作品に感銘を受け、未来の林業における労災事故を減らすための安全装置のアイデアを着想いたしました。

現代の林業は依然として危険な作業が多く、国内の労働災害でワースト1です。
林野庁の HP より引用)

林業労働災害の現況

林業における労働災害の発生は、各種災害防止活動の展開等、関係者の努力により減少傾向で推移していますが、労働災害の撲滅を図るためには、今後とも安全衛生対策の確実な実行を推進することが必要となっています。

(単位:人)

区 分		平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
死傷災害 (休業4日以上)	全産業	117,910	120,460	127,329	125,611	131,156	149,918
	林 業	1,561	1,314	1,342	1,248	1,275	1,235
死亡災害	全産業	928	978	909	845	802	867
	林 業	41	40	31	33	36	30

資料:死傷者数(休業4日以上)は「労働者死傷病報告」、死亡者数は「死亡災害報告」(厚生労働省)。

このままでは 100 年後の未来の林業従事者も同様のリスクに晒されるのではないかと強く懸念しております。自然豊かな山を守り、持続可能な林業を未来へと繋ぐためには、働く人々の安全確保が不可欠です。

装置名称「キツツキハンマー」

概要: 作業ヘルメットに装着した、装置は、ヘルメット内部の温度湿度、気圧計や転倒滑落センサーなどのデータを AI で処理して、身体異常をスマートフォンと連携し近くの仲間に SOS を発信して助けを知らせるシステムです。

携帯電話とはブルーツースで連携できます。しかし、林内は携帯電波が届かないの場所が多いので特殊な無線方式 LPWA で近くの仲間に SOS を知らせます。

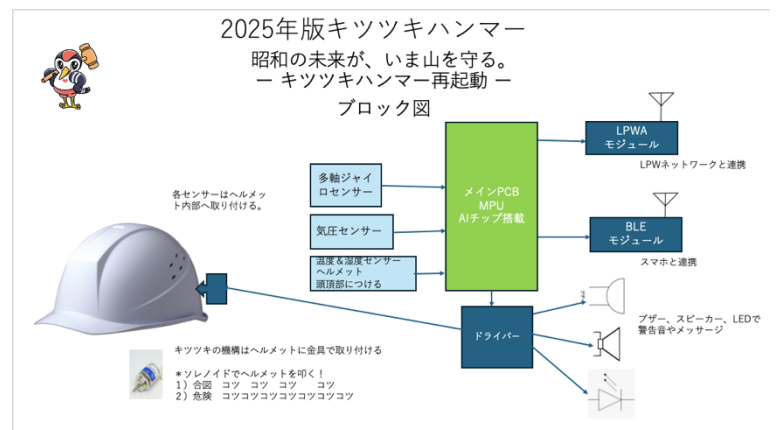
その通知方法がキツツキの様にヘルメットをコンコンと叩いて知らせます。

作業現場はチェーンソーエンジンなどの作業雑音が多いところでも認識できます。

コンセプト画像とブロック図(イメージ)



(ヘルメットに搭載)



このアイデアは、「高速エスパー」が描く未来への希望や、人間の能力拡張といったテーマにインスパイアされたものです。鳥の持つ優れた能力を安全装置に応用することで、騒音環境下でも確実に危険を察知し、未来の林業従事者を守ることができるのではないかと考えております。

2014 年に考えた「キツツキハンマー」は林野庁や東京都の補助事業に採択され試作研究開発しております。参考 URL <http://www.plum-syst.com/woodpecker-hammer/>

このアイデアが、先生の作品を愛する皆様、そして未来の林業に関わる方々にとって、何らかの希望や刺激となれば幸いです。

お忙しいところ恐縮ですが、ご一読いただければ幸いです。

敬具

プラムシステム株式会社 代表：松本敬吾

TEL:090-3594-1336

『スペース ICT 推進フォーラム会員』『森ハブ会員』

ハケ岳プラム Lab(山梨県北杜市)

〒408-0031

山梨県北杜市長坂町小荒間 1091-10

<http://www.plum-syst.com>

keigo.matsumoto@plum-syst.com